

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 4 区分
【発行日】平成 16 年 7 月 8 日 (2004.7.8)

【公開番号】特開 2003-305994 (P2003-305994A)
【公開日】平成 15 年 10 月 28 日 (2003.10.28)
【出願番号】特願 2002-327538 (P2002-327538)
【国際特許分類第 7 版】
B 4 3 M 15/00
【F I】
B 4 3 M 15/00 A

【手続補正書】
【提出日】平成 15 年 3 月 28 日 (2003.3.28)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】抜き取り可能な画鋏

【特許請求の範囲】
【請求項 1】幅広の略円盤状鍔部 (3) の下面側に尖端の針部 (4) を、上面側に横向きの挿通孔 (2) を穿設した掴み代 (1) を、前記略円盤状鍔部 (3) の平滑面 (5) を残して設けてなる抜き取り可能な画鋏。
【請求項 2】前記掴み代 (1) が直方体またはそれに類似する形式で横向きの挿通孔 (2) を穿設して成るピース状体である請求項 1 記載の抜き取り可能な画鋏。
【請求項 3】前記掴み代 (1) が板状主体部により横向きの挿通孔 (2) を形成してなるピース状態である請求項 1 記載の抜き取り可能な画鋏。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は壁や柱等に掲示物を貼り付けるための抜き取り可能な画鋏に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

1. 一文字型指回しヘッドからなるネジ付き押しピン。

登録実用新案公報 3 0 3 9 2 9 6 号

2. 平板状の頭がリング状、またはフック状で一連に接着されている画鋏を使用した画鋏打ち機械。

公開実用新案公報 実開平 6 - 7 5 7 9 5

及び 刺し針を植え込んだ頭台座に指孔を形成するリングを一体化して、プラスチックで一体成型した指リング取っ手の付いた押しピン。

公開特許公報 特開平 1 1 - 2 5 4 8 9 0

3. テコ用レバーが装着されている画鋏。

公開特許公報 平 4 - 1 1 2 0 9 9

4. 板状の画鋏の頭部をくの字型にし、てこの原理で抜きやすくする。

特許公報 特許第 3 1 0 3 7 6 3

5. 断面はほぼ U 字状に折曲した狭持板の一方の外面にピンを突出させた画鋏 公開特許公報 特開平 1 0 - 1 3 8 6 9 5

6. ピンフック付きの頭に複数の針をつけてある画鋏。

公開実用新案公報 実開平 7 - 4 4 4 8 3

【 0 0 0 3 】

7. 紐を画鋏本体側面の翼のフックに引っ掛けて物を吊るす。

公開特許公報 特開平 6 - 7 9 9 9 5

8. 軟質ゴム又は他の高分子材質のリング内に頭部を入れ内側から画鋏の針を貫通させる。
登録実用新案公報 第 3 0 1 6 1 2 4

9. 頭部の頂部の穴、又はスリットに、画鋏のピンを差し込み、多段に積み重ねることができる。公開実用新案公報 実開平 5 - 3 5 3 9 0

10. 使用しないときは針が頭の中にしまいこまれ、使用時だけ針が頭の中から出てくる。
公開特許公報 特開 2 0 0 0 - 2 0 3 1 9 7 号

【 0 0 0 4 】

【 発明が解決しようとしている課題 】

従来の幅広の略円盤状鍔部の厚さが均一な板状の幅広の略円盤状鍔部 (3) で形成される画鋏は使用しているとき目立たないが幅広の略円盤状鍔部 (3) を爪で挟んで外すことが多かった。幅広の略円盤状鍔部はニッパー (1 1) 等では挟みにくいため使いにくかった。

また、画鋏を外すとき画鋏の頭と壁面 (7) 等の間に隙間がないためにそこにくさび状のものを差し込むことが困難な場合もあった。

【 0 0 0 5 】

画鋏を抜き易くすると頭の部分のつまみや頭自体も大きくなるか、又は構造が複雑になる欠点があった。

画鋏は画鋏の略円盤状鍔部 (3) で掲示物を壁面 (7) 等に押しつけて壁面 (7) に掲示物を止着する事が多く軽い物を吊り下げるときはやや面倒であった。

頭の平たい画鋏は針が刺さりにくいとき上から叩こうとしても画鋏を支える個所もなかった。

【 0 0 0 6 】

画鋏で掲示物を留めるとき、数個の画鋏を手の平に載せているか、またはいちいち箱の蓋を開いて取り出さなければならなかった。抜いた画鋏を収納するときも同様で、不便であった。

高所の画鋏を抜くときは、踏み台の上に立って抜くか、器具を使って画鋏と壁との間にくさび状のものを刺し込んで抜く場合もあるのだが、もう少し、簡単に抜くことができれば良かった。

高所にいるとき床面等の下方の容器に画鋏が流れ込んでくれればなお良かった。

本発明は上記に鑑み、壁等に係止された画鋏をニッパー (1 1) 等の道具を用いて、容易に引き抜くことができるとともに、小さいまま、差し込み易く、持ち運びしやすく、かつ収納し易い画鋏を提供することを目的とするものである。

【 0 0 0 7 】

【 課題を解決するための手段 】

前記課題を達成するために、本発明の画鋏 (1 0) は厚さが均一な略円盤状鍔部 (3) の下面側に針 (4) を植え込んだ画鋏 (1 0) において、幅広の略円盤状鍔部 (3) の針 (4) がない上面側に、掴み代 (1) を設け、その掴み代 (1) に挿通孔 (2) を略円盤状鍔部 (3) の上面側の平滑面にできるだけ近く、略円盤状鍔部 (3) の上面又は裏面の表面に略平行に、すなわち針 (4) に略直角となるように開け、略円盤状鍔部 (3) の上面側の平滑面に於いて挿通孔 (2) の両開口部の両外側の部分、又は掴み代 (1) の両端が略円盤状鍔部の両端まで延びている場合も掴み代 (1) の対面する側面の両外側の部分が掴み代 (1) で覆われないように露出させて形成されたものである。この場合掴み代 (1) の対面する両側面の外側になる上面側の平滑面 (5) が針の付け根に対して対称になっていればニッパー等により画鋏を挿し込むとき真っ直ぐに挿し込むことができる。

【 0 0 0 8 】

掴み代 (1) には ▲ 1 ▼ 略円盤状鍔部 (3) の上面側に略円盤状鍔部 (3) の一部を盛り上げて形成したもの、掴み代 (1) を略円盤状鍔部 (3) の上面側の表面に固着して形成

したもの、▲2▼略長方形の板状のものを曲げて上面側の表面に固着し略筒状又は断面が略半円状の挿通孔(2)を形成したもの等があるが、いずれも、少なくとも、その挿通孔(2)は略円盤状鍔部(3)における上面側の掴み代(1)にあけた挿通孔(2)の両開口部の両外側の部分が、掴み代(1)等で覆われないで露出させて形成されたものである。

【0009】

すなわち、掴み代(1)を形成する金属等の物体の長さが短く略円盤状鍔部の両端に達しない場合は、掴み代(1)及び掴み代(1)と略円盤状鍔部の接合面の外側全体に於ける略円盤状鍔部の上面側の平滑面が掴み代等で覆われないように露出させて形成されたものである。それによって、いずれの場合も掴み代(1)をニッパー(11)等で挟み、画鋏(10)を抜くことができるとともに略円盤状鍔部(3)の掴み代(1)等で覆われていない部分をニッパー(11)等の先端の平らな部分で押す事により、画鋏(10)を壁(7)等に差し込むことができる。掴み代(1)に開けた挿通孔(2)に平行である掴み代(1)の対面する両側面の外側に於ける画鋏(10)の略円盤状鍔部(3)の表面の両側が掴み代(1)で覆われていない図1や図3の場合は、ニッパー(11)等で挟んだまま挿通孔(2)に糸等の線状体(9)を通すことができる。

【0010】

通常はいずれの場合も掴み代(1)についた挿通孔(2)に、糸等の線状体(3)を通すことができる。

また、掴み代(1)についた挿通孔(2)に、細い棒(8)を挿し込むとか、鉤の先を挿すことができる。

掴み代(1)は小さいときや薄い布、シート、金属で構成されている場合は、指で画鋏(10)の略円盤状鍔部(3)を直接押して壁(7)に差し込むことが比較的容易になるが通常は挿通孔(2)に糸等の線状体を通しにくくなる。

【0011】

掴み代(1)は頑丈な場合は、挿通孔(2)に棒を差し込み支えながらその上から静かに叩いて画鋏(10)を挿し込むことができる。

掴み代(1)にあけた挿通孔(2)は小さいほど良いのだが、離れた場所の画鋏(10)を挿通孔(2)を利用して抜き取る場合はやや大きな挿通孔(2)のほうが良い。略円盤状鍔部は他に略長方形や楕円形等種々の形が考えられる。

【0012】

【作用】画鋏(10)の針(4)を壁(7)等に刺したとき、略円盤状鍔部(3)の上面側の掴み代(1)と掴み代(1)に付けた挿通孔(2)が壁(7)面の上側に必ず出ている、常に口を開いているので、図8(a)のようにそこに棒(8)等を簡単に挿し込むことができる。したがって下記の共通な働きがある。

【0013】

この掴み代(1)が画鋏(10)全体とつながっているため、ここを引けば画鋏(10)は壁(7)面等から抜くことができる。

また、その挿通孔(2)に金属製の棒(8)を通してその棒(8)の支点になる部分を壁(7)面の一部に当てて、壁(7)面から離すように引くことにより、図8(a)、(b)のようにてこの原理を使って画鋏(10)を抜くことができる。棒(8)を挿し込む挿通孔(2)がいつも掲示物の上にあるので、天井などの離れた場所でも、その挿通孔(2)に棒(8)を挿し込みやすいため、抜く作業も容易である。挿通孔(2)は小さいほど良いのだが、高所の画鋏(10)を抜くときは、挿通孔(2)が大きいほうが便利である。いずれにしても挿通孔(2)が小さい場合でも、離れていても比較的抜き易い。

【0014】

また、その挿通孔(2)に糸や針金等を通せば壁(7)面などに軽い請求書や領収書等の物を吊るすこともできる。

【0015】

糸や針金等の線状体が長い場合にはその挿通孔(2)に通した糸、紐、又は針金等を手に

掴んで画鋏(10)をひき抜く事ができる。ただし、あまり長いと、画鋏(10)が目当たったりして危険である。

更に略円盤状鍔部(3)の掴み代(1)の挿通孔(2)に、先端部が曲がった細い金属に画鋏(10)の挿通孔(2)を引っ掛けて画鋏(10)を抜くこともできる。

【0016】

また、画鋏(10)を刺し込む作業をしているときや、画鋏(10)をはずす作業をしているときに画鋏(10)の入った箱を持ち歩く場合蓋を開けたり閉めたりする必要があり、いちいち箱を置く場所も考えなければならず面倒だが、図9のように略円盤状鍔部(3)の上面側の挿通孔(2)に針金や紐を通すことによりたくさんの画鋏(10)を簡単にまとめながら持ち歩くことができる。たくさんの本発明の画鋏(10)を糸につないだまま箱等に入れた場合でも取り出すことも数を数えることも便利である。

【0017】

高所で画鋏(10)の抜き取りの作業をしているとき、抜いた画鋏(10)を、挿通孔(2)に糸等の線状体(9)を通して糸等を伝わせて、床の容器に導くこともできる。

【0018】

掴み代(2)はペンチ等の挟み部の両方の先端部がぴったりとくっつき先端部が平らな洗濯挟み、ニッパー(11)等で挟んで画鋏(10)を固定し、図7のように掴み代(2)の両側にある略円盤状鍔部の上面側の部分を、挟んでいる器具の先端の両側の平らな部分で同時に、両側に均等に力を加えて押して壁面(7)に刺し込むことができる。この場合にはニッパー(11)等を握って刺すため大きな力で刺すことができる。同様に抜き取る作業も容易にできる。

【0019】

挿通孔(2)に針金(8)等を挿し込んで画鋏(10)を支えて小さな金槌で叩いて刺し込むこともできる。また、抜くときに挿通孔(2)に棒(8)等を挿し込んで回してから抜くこともできるため抜き易いので画鋏(10)をやや大型で頑丈にすることもできる。本発明の画鋏(10)は小さな子供でも力のない人でも刺し込むことも抜くことも容易で、持ち運びしやすく、かつ収納し易い。

【0020】

【実施例】

以下、本発明に係る抜き取り可能な画鋏(10)の実施の態様につき、添付図面に基づいて説明する。

【0021】

本発明に係る抜き取り可能な画鋏(10)は、図1に示されるように、幅広の略円盤状の鍔部(3)における下面側に尖端状の針部(4)、その上面側の平滑面(5)に不定形の線状体より成る掴み代(1)を前記幅広の円盤状等の鍔部(3)に於ける平滑面(5)を残して一体的に形成される。

【0022】

前記掴み代(1)は、図1に示されるように、幅広の略円盤状鍔部(3)の上面側の略中央に略矩形状とするピース状体6として、その残余部を平滑面とする以外、断面が略円弧状とするピース状体6b(図2)、略円筒状とするピース状体6c(図3)、断面が略半円形状とするピース状体6d(図4)、あるいは側面視略ハット型とするピース状本体6e(図5)等種々の形状のものが用いられる。

【0023】

さらに、この掴み代(1)は、ピース状本体6以外、図6のように薄い金属、シート、または布等のような不定形の面状体の材料を用いることが可能である。

すなわち、側面視略ハット型の特殊なものとして、掴み代(1)を構成する素材にこれらのもののうち薄く丈夫な平面的な広がりのある素材を使用すると画鋏(10)を押し込むとき、指の先が痛くなりにくいのだが、指先が切れるようなものでなければ好都合である。また、これらの素材が丈夫であればそれらの幅を狭めることもできる。

【0024】

図 1 ~ 図 4 ではこの掴み代 (1) に、挿通孔 (2) を略円盤状鍔部 (3) の表及び裏側の面、すなわち壁等 (6) との接触面に略平行で、かつ針 (4) に垂直にあける。

【 0 0 2 5 】

さらに、図 2 では掴み代 (1) の両側面の外側に於ける画鋸 (1 0) の略円盤状鍔部 (3) に於ける表面が、画鋸 (1 0) が図 2 の位置にある場合に、その上面には、掴み代 (1) の一部など何もないようにする。そして、画鋸 (1 0) の上面側のなにもない部分が略円盤状鍔部 (3) における針の付け根に対して対称形になるようにする。また、図 1、図 3、図 4 では掴み代 (1) と画鋸 (1 0) の接合面の周囲に於ける画鋸 (1 0) の上面側には、画鋸 (1 0) が図の位置にある場合その上方には何もこないようにしてあけて形成する。この場合も画鋸 (1 0) の表面のなにもない部分が、少なくとも掴み代 (1) の対向する 1 対の両側面に対して存在し、かつ略円盤状鍔部 (3) における針の付け根に関して対称形になるようにする。同様に、複数の対称形になるような部分があればなお好都合である。なお、挿通孔 (2) の入り口と出口の中間点が針の延長線上に来ることが望ましく、掴み代 (1) の挿通孔の入り口と出口を結ぶ線上の略円盤状鍔部 (3) 等の上面側にはなにもこないようにあけておくことが、当然、大切である。

【 0 0 2 6 】

図 5 では同様に略円盤状鍔部 (3) の片面に針 (4) を植え込み、反対の面に金属等から成る略長方形の板状主体部を曲げて略筒状の掴み代 (1)、又は断面が略半円状の掴み代 (1) を作り、その略筒状の部分の挿通孔が針 (4) に垂直になるように画鋸 (1 0) 略円盤状鍔部 (3) のできるだけ上面の表面に近くに設ける。画鋸 (1 0) が図 5 の位置にある場合、掴み代 (1) の下側になる略円盤状鍔部 (3) の上面側の表面、及び板状の金属等の両端等に於ける略円盤状鍔部 (3) の上面側との接合面以外の画鋸 (1 0) に於ける上面側の表面の上方には何もこないようにして画鋸 (1 0) を形成する。

【 0 0 2 7 】

挿通孔 (2) が略円筒形の場合は筒をくつつけたような形になる。

金属等の板状の物質が非常に柔らかく薄いシート等の場合は指で画鋸 (1 0) を差し込むこともできる。

図 1 ~ 図 5 のいずれの場合も、▲ 1 ▼ 略円盤状鍔部の上面側に掴み代 (1) を付けることにより掴み代 (1) をニッパー (1 1) 等で挟んで刺し込むことや抜き取ることができるようにするとともに、▲ 2 ▼ 掴み代 (1) の対面する両側面の外側または掴み代の周囲に、掴み代 (1) で覆われていない画鋸 (1 0) の上面側に於ける表面の部分を略円盤状鍔部 (3) の針の付け根に対し対称にし、画鋸 (1 0) を押すときや引くときに針をバランス良く押す・引くことができるようにして設けておく。▲ 3 ▼ 細い棒等を使うために、その掴み代 (1) に、略円盤状鍔部 (3) に略平行に、略円盤状鍔部の表面にできるだけ近づけて、小さい挿通孔 (2) を開ける。この▲ 1 ▼ ~ ▲ 3 ▼ の 3 項目を特徴とするものである。

【 0 0 2 8 】

【 発明の効果 】

画鋸 (1 0) を被固定面に固定した状態でその掴み代 (1) に挿通孔 (2) が開いているため、掴み代 (1) と挿通孔 (2) は、常に被揭示物の最も上側に露出している。したがって、その掴み代 (1) をニッパー (1 1)、ペンチ、又は先端が角張っていて平らな洗濯挟みで図 7 のように摘むことができる。壁 (7) に突き刺してあるときもそうでないときも挟むことができる。画鋸 (1 0) の掴み代 (1) の外側にある上面側の平滑面 (5) が、針の付け根に対して対称形の場合真っ直ぐに打ち込めるため画鋸を差し込む作業も容易である。この際は、ニッパーで挿通孔 (2) を摘んで差し込むため、指先で押さえて差し込むのとは異なり、大きな力を加えることができる。画鋸 (1 0) を壊さないように注意しなければならない。

【 0 0 2 9 】

また、その挿通孔 (2) に糸、紐、針金等の線状体 (9) または棒 (8) 等を通すことができる。しかも、壁 (7) に画鋸 (1 0) を刺しこんである時も、刺しこんでない時も通

ることができる。したがって、▲ 1 ▼画鉤（ 1 0 ）を壁に刺してあるとき、糸を通し他の軽い物を吊るす事や、通した糸を引いて画鉤（ 1 0 ）を抜くこと等ができる。▲ 2 ▼図 1 0 のように画鉤（ 1 0 ）を抜いた後挿通孔（ 2 ）に通した糸を伝わせて容器に誘動することができる。▲ 3 ▼図 9 のように挿通孔に糸を通して収納できる。

【 0 0 3 0 】

また、画鉤（ 1 0 ）を壁（ 7 ）に刺したときの、挿通孔（ 2 ）の位置が壁面（ 7 ）に近い場合は図 8 のように、棒（ 8 ）を挿通孔（ 2 ）に差し込んだとき、壁面（ 7 ）を、てこの支点として使い易い。このことは、また、挿通孔（ 2 ）に糸等を通して図 9 のように数珠繋ぎにする収納の作業もし易いことにも通じる。また、画鉤（ 1 0 ）が抜けないとき、棒（ 8 ）を通して、図 8（ a ）の状態でも回転させ、抜きやすくなる。画鉤（ 1 0 ）を壁面 7 に刺し込むとき棒（ 8 ）を通して、図 8（ a ）の状態でも挿通孔（ 2 ）の部分に棒（ 8 ）を通して画鉤（ 1 0 ）を動かさないようにして、掴み代（ 1 ）を少し叩いて画鉤（ 1 0 ）を差し込むこともできる。すなわち、挿通孔及び掴み代は画鉤（ 1 0 ）を支える・掴む等の手がかりにすることができる。

【 0 0 3 1 】

画鉤（ 1 0 ）に多くの種類の機能を持たせられるが、画鉤（ 1 0 ）が持つのは手がかりで、仕事は他の器具がするため、画鉤（ 1 0 ）は比較的小さく、掲示物やその他の物の邪魔になりにくい。また、画鉤（ 1 0 ）自体は、従来のように小型にできるが、大型で頑丈にしてもしても抜く、刺すの操作がし易い。

【 0 0 3 2 】

【図面の簡単な説明】

【図 1】略円盤状鍔部に掴み代の付いた画鉤の、（ a ）は斜視図、（ b ）は側面図である。

【図 2】略円盤状鍔部に掴み代の付いた画鉤の他の例を示すもので、（ a ）は斜視図、（ b ）は側面図である。

【図 3】略円盤状鍔部に掴み代の付いた画鉤のさらに他の例を示すもので、（ a ）は斜視図（ b ）は側面図である。

【図 4】略円盤状鍔部に掴み代の付いた画鉤のさらに他の例を示すもので、（ a ）は斜視図、（ b ）は側面図である。

【図 5】略円盤状鍔部に掴み代の付いた画鉤のさらに他の例を示すもので、（ a ）は斜視図、（ b ）は側面図、（ c ）は立面図である。

【図 6】略円盤状鍔部の掴み代に、薄い板状主体部を使用した場合の斜視図である。

【図 7】ニッパー（ 1 1 ）を用いた引き抜き状態を示す略示図である。

【図 8】棒 8 を用いた引き抜き状態を示す略示図で、（ a ）は棒 8 の差し込み状態を（ b ）はその引き抜く状態を示すものである。

【図 9】抜き取り可能な画鉤の収納状態を示す略示図である。

【図 1 0】抜いた画鉤を、線状体を伝わせて、容器に移動させる場合の略示図である。

【 0 0 3 3 】

【符号の説明】

- 1 掴み代
- 2 挿通孔
- 3 略円盤状鍔部
- 4 針
- 5 平滑面
- 6 指
- 7 壁
- 8 棒
- 9 糸、紐、又は針金等の線状体。
- 1 0 画鉤
- 1 1 ニッパー

- 1 2 容 器
- 1 3 ス ト ッ パ ー